

# 医師は語る

お薬は必要です



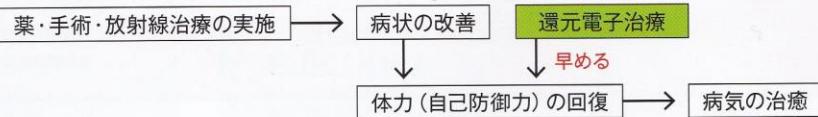
医療法人社団健翔会  
堀口医院 理事長  
堀口 裕

よく西洋医学の処方薬をけがらいする話を耳にします。本来、お薬はできる限り使わない方が良いと思いますが、健康を取り戻すために使うべき時は、是非使ってほしいです。もし、自分の小さな子供さんが風邪を引いて高熱があるのに、お薬は好ましくないといって服用しなければ、場合によつては肺炎を起こし死亡することもあります。解熱剤（実際は消炎解熱鎮痛剤）を使って熱を下げれば、身体はとても楽になるので、ご飯を食べ、水分をとり、十分に睡眠をとることができます。そうなれば子供さんの体力は回復し、邪を治すことができます。

人が病気になるのは、体力が低下するからです。ですから病気を治すには、その低下した体力をもう一度回復する以外にないので。この時お薬を使えば身体が楽になり、体力を回復する際のきっかけになるのであります。もちろんお薬そのものは決して

病気を治せません。しかしお薬を使えば血糖値の高い方は血糖が下がり、また癌の方は癌の病巣が縮小し、肺炎の方は肺の陰が縮小します。その間に自分でしっかりと体力の回復を図り、病気を治癒（ちゆ）させることができます。

## 体力が病気を治す



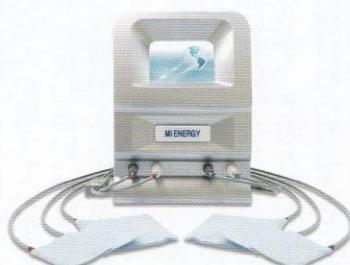
いいほど、短い年数でも病気が起りますし、反対に自己防御力の低下が僅かなう、長い年数でも病気は起ります。ですからできるだけ子供さんの頃から、自己防御力を高めておけば、たとえ九〇歳を越えても病気にならないのです。

## 時間をかけて治す

さて病気になった場合、一生懸命に治療して、自己防御力が回復したとしても、すぐに病気が治ることはありません。自己防御力が良くなつたのだから、病気が治るという理屈は、全くその通りなのですが、前述のように自己防御力が低下してもすぐさま病気になることなど同様に、病気を治す時も、高い自己防御力をも、何ら自覚症状はありません。ですから年に一回程度は「自己防御力診断」を受けなければなりません。ところで自己防御力が低下したら、即座に病気が起るのかといえば、そうではありません。通常自己防御

体力の低下とは、病気が起こる時の病気が起こる時の体力の低下とは、自己防御力の低下のことと意味します。改めて人が病気になるのは、自己防御力の低下です。しかしながら、病気が治るという理屈は、全くその通りなのですが、前述のように自己防御力が低下してもすぐさま病気になることなど同様に、病気を治す時も、高い自己防御力を持続させる必要があります。ほとんどの人は、そのことを忘れていま

【堀口裕先生プロフィール】北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院、現在は理事長兼院長を務める。長年に亘り、空気中のネガティティブイオンに関する生理的作用を研究、独自に開発された細胞内検査と還元電子療法を駆使した、根元（ねもと）医療という新しい医療を推進し、国内外で活躍している。



度（朝、昼、夕、寝る前）を目安に行つて下さい。もちろんすでに病気の人は、それ以上の治療回数を行つて頂いても構いません。どうか生涯健康で楽しい人生を過ごすために、全力で自己防御力を高めましょう。